



# 物流ニッポン

2008年(平成20年)

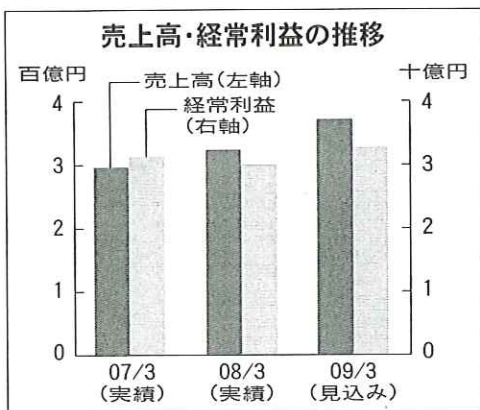
6 | 2 (月)

発行/月曜日・木曜日 第3137号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

## 国内3拠点で増床



### 安田倉庫

### 早期フル稼働を目指す

### 国際ビジネスも拡大軌道

【高橋健太】安田倉庫は五月二十八日に開いた決算説明会で、二〇〇九年三月期の重点施策を発表した。計画では、新規3拠点の早期フル稼働や中国・ベトナムの海外拠点を軸にした国際事業の強化などに取り組むことで業容拡大を図る。〇九年三月期の連結業績は、売上高三百六十億円(前期比一一・四%増)、経常利益二十八億円(九・七%減)を見込む。

二〇〇七年四月に移転した加須第一営業所(埼玉県加須市)および大阪営業所(大阪市住之江区)に加え、十二月に竣工予定の新山下倉庫(横浜市)

区)の3拠点で総延床面積四万七千平方メートルを増床し、物流のアウトソーシング(業務委託)ニーズの取り込みを強化、早期フル稼働を目指す。設備投資は今年三十五億円規模を計画しているが、十七億円を新山下倉庫の建設費に、残りを既存施設の修繕費用などに充てる。

一方、国際事業では昨年下期に受託したメディカル関連のベトナム発の国際輸送業務の円滑な立ち上げとともに、三國間輸送を強化。併せて、ハノイ駐在事務所の現地法人化を推進する。中国では上海支店に続き、今夏をメドに天津支店を新設するなどネットワークを拡充し、「念願の国際ビジネスを拡大軌道に乗せる」(田中稔社長)。

〇九年三月期は増収減益を見込んでいる。日本ビジネスロジスティクス(旧日本IBMロジスティクス)の子会社化や拠点開設、国際事業の拡大などで売上高は二けた増の伸び率となるものの、減価償却費の増加や租税負担が利益を押し下げ、減益となる。